

## NPO法人六樹会パソコンサロン 令和2年度第8回理事会 議事録

開催日時 令和2年9月25日(金曜日) 15時15分から17時00分

開催場所 Zoom による Web 会議

理事総数 7名

出席者 岡田 まき子、鎌田 洋、川本 牧子、中垣 修、藤崎 和子、山下 征一郎、横尾 敏雄  
以上理事7名(敬称略)

資料 今一度、講座運営&事業運営について

- 議題 (1) 「受講生第一」について  
(2) 「六樹会の会員」とは  
(3) 「六樹会パソコンサロンのあるべき姿」とは

---

### 【開催目的】

9月6日に開催した理事会において、結論が出なかった項目を議題として、それぞれどのようにすることがこの会の発展的な運営に繋がるかを意見交換し、「講座運営・事業運営」についての意識合わせをする。

### 【議事の経過】

#### 1. 事務局長より:

理事会の資料「今一度、講座運営&事業運営について」の説明があり、各理事それぞれの考えを述べていただいた後、その取りまとめを横尾理事長にお任せするという事で理事会が進められた。

#### 2. 理事長から:

9月6日の議事録の中で、最終的な結論が出なかった項目について、事務局長からの説明に基づき、より良い講座運営・事業運営につながるようみなさんと意見交換し、9月6日の最終結論を出していきたい。

その前に、9月6日の討議の結果、各教室の講座を順調にスタートさせることができたことを皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

本日の議題について、それぞれどのようにすれば、この会の発展的な運営ができるかを重点的に発言いただきたい。そのことによって、問題点の結論が出てくるのかなぁ…と思っている。

ただし、(2)の「六樹会の会員」については、6日に補足説明があったように、『私たちのパソコンの理解力はまだまだ不足している』ということも文章にした時、「小さなコマ」というような表現になってしまったということで理解している。(了解)

よって、本日は、(1)の「受講生第一」、(3)の「六樹会パソコンサロンのあるべき姿」についての発展的な意見をお願いしたい。

## 【「受講生第一」について】

受講生一人一人に即した対応を心掛ける…日ごろからそれぞれが厚い思いをもって目指していることであるが、更に、きめ細やかな対応を目指すことが受講生をより満足させることになる。

理事長、事務局長、理事の立場の相互理解が必要である。そのためにも、情報を共有すること、そして、新たな提案や異議を尊重し、審議の場を設けること。

例えば、講義内容での細かいアドバイスは、講師として当然なのかもしれないが、Zoomにおいては、講座総括に任せる。私たちは、橋渡しをするということも大事なサポートではないか、それが即した対応で、「受講生第一」につながるのではないか、窓口を一本化することによって、役目のすみわけができてくるはずである。

## 【「六樹会パソコンサロンのあるべき姿」とは】

定款にもあるように、パソコンの活動を通じて、高齢者同士の交友範囲を広げ、生き甲斐と活力をもって暮らせる長寿社会に寄与していけたら…というのが「六樹会パソコンサロン」の目的であり、あるべき姿である。

メイン講師とサポーターとが一緒になって受講生とつながっていく…これが六樹会のすばらしいところであり、対面講座でこそ発揮されるものである。

「六樹会パソコンサロン」はボランティア事業、意見等があれば、個人を責めるのではなく、対等に話し合い理解していくのが六樹会のあるべき姿である。

一方、六樹会では、理事それぞれに役割があり、その役割を果たし、お互いの立場を理解しあって楽しく活動できる「六樹会パソコンサロン」でありたい。

## 【最後に…】

今回の件については、六樹会のことを考えるあまりのできごとであり、その気持ちは、みんなも理解している。

今回このような発展的な会議ができたことをうれしく思う。この経験を活かし、今後も情報の共有を密にし、7人がしっかりタッグを組んでいける会にしなければならない。そうすることで、他の会員にも安心していただけるものと思っている。

「事務局長及び講座総括担当」の件は、鎌田さんに継続をお願いし、ご了解をいただいた。体力の続く限りお願いしたい。どうぞ よろしく申し上げます。

## 【みんなの意見】

- それぞれの厚い思いを出していただいているから、「受講生第一」の活動ができています。必ずしも 定義付けではない。例えば、今回のコロナ問題により、予想もつかないことが起きた。それに対して どう対応していくか…常に、必ずしもこうでなければならないということはない。一番大事なものは、変更が必要になった場合、7人が共有の場を持つことである。
- 立場の違いで、こうなったことは 確かである。そのことに 気付かないでいた。いつも、「六樹会パソコンサロン」を思い、一生懸命かかわってくださったからこそ 今日がある。今回、唐突に進められたが、その時、『ええっ?』と思った者がいて、仲間が『チョット 待った!』の声を上げ、話し合いの場を持った。その結果、みんなが望む講座を進めることができた。今後、おかしいなと気づいたら、声を上げ、話し合い、そして、お互いに理解し合える会であってほしい。
- 自分が言ったことで かなりストレスを感じて 体調も崩した。意見を言うことによって 皆さんに迷惑をかけてしまった。これから ものを言うてはいけない そういう気持ちでいる。
- 決して、発言に対して、個人を攻めているわけではない。その結果、私たちの活動の発展につながった。香芝教室に「基礎科」が、檀原教室に「研修科」ができ、応用科」も復活できた。
- みなさん 厚い思いを持って、講師として 頑張っていたいただいていることを ありがたいと思う。講座運営について、受講生目線で 工夫されて、きめ細かに対応されていると思う。それは、受講生にとっても嬉しいことである。

「受講生第一」は発足当時にはなかったが、進む中で、受講生に対する思いを「受講生第一」として掲げられて 今日に至ってきた。これからも 活動の目標として 進めていってほしい。
- 「受講生第一」と云々いうよりは、今回の場合には、大きな変更を 理事会に相談なしに進んでしまったということで、いろんなことが出てきた。

みんなが「受講生第一」と思っているし、その大事さの思い方、物差しは、いろいろだと思っている。それを追求して 共通にしないといけないということではない。今までで十分だと思う。
- 受講生に大きなことを連絡されるときには、中身にもよるが、理事の中で共通理解、情報を共有してからでないかと…、後で蒸し返すのは、発信した者も 意見を言う者も大変かなと思う。
- この発端は、事態の把握にあったと思う、実際、応用科を希望されていた人はかなりいたのに、確認なしで、日が迫っているからと発信された。受講生を思うなら、応用科希望者数の再確認が必要であったはずである。多少なりとも、それが 受講生に不信感を与えてしまった。

(文責 岡田)